



メインアプローチから見た宮城県美術館



コレクションの例：  
 上段：高橋由一《宮城県庁前図》  
 左下：ヴァシリー・カンディンスキー《FER キャンベルのための壁画No.4》の習作  
 右下：パウル・クレー《パレシオ・ヌア》

## はじめに

昭和56年に開館した宮城県美術館は、開館から36年を超え、各施設及び設備の老朽化が著しく進行しています。美術品を収集保存し広く公開することが、美術館の最大の使命です。県民の財産である文化財としての美術品を守り、未来に伝えるためには、その要となる展示・収蔵施設の全面的更新が不可欠になっています。

同時に、開館時と比べ、美術館に求められる役割は大きく変化し、新たな機能がこれまで以上に求められています。その実現のため、老朽化した部位の改修・更新に留まらない、施設全体の大幅なリニューアルが必要です。

宮城県では、平成29年3月に「宮城県美術館リニューアル基本構想」（以下「基本構想」という。）を策定しました。本「宮城県美術館リニューアル基本方針」は、「基本構想」の実現に向けて、リニューアルの具体的な内容を示すものです。

## 第1章 リニューアルの背景

### 宮城県美術館の現状と課題

#### （1）老朽化の状況

建物については各部で経年劣化が進んでおり、改修が必要です。設備に関しても更新推奨年数超過や劣化の進んでいるものが多く、更新が必要な状況にあります。

#### （2）今日的課題

宮城県美術館を取り巻く状況の変化には、主に以下のようなものがあります。

- **展示会のあり方**：事業規模と展示規模の大型化や、「ここにしかない」価値をアピールする上での美術館のコレクションと常設展示の重要性の向上
- **地域における位置づけ**：増加した関連施設との、連携や役割分担の考慮
- **アートシーン**：日々めまぐるしく変化する美術表現への対応と追及の継続
- **美術館での過ごし方**：リラックス、情報取得、コミュニケーションなど、美術を介した幅広い体験ができる場としての機能への期待の向上
- **公共施設のあり方**：あらゆる人にとって快適な社会を実現するための合理的配慮の必要性と、そのための設備や機器の技術的な進歩
- **美術館と子どもの関係**：子どもが美術に触れる場としての役割への期待の高まり
- **周辺地域をめぐる人の流れ**：公共交通機関による市内各所からの交通便利性の向上や、新幹線や自動車道路の充実による来館の利便性向上
- **東日本大震災と復興**：「心の復興」を支援する役割への期待

## 第2章 リニューアルの目的と方向性

### 1 宮城県美術館の目指す姿

「基本構想」や建設時の「宮城県美術館建設基本構想」を踏まえ、宮城県美術館は以下のような美術館であることを目指します。

「記憶に残る」

「また訪れたいくなる」

「常に新しい発見のある」美術館

### 2 施設改修の基本方針

美術館が現在もっている財産・資源を最大限に有効活用することを念頭に、以下に挙げる点について特に配慮します。

- **豊かな自然環境の保全**：広瀬川や青葉山など「杜の都仙台」の象徴の保全
- **既存建物の空間構成の本幹の尊重**：外観、中庭、エントランスホールなど、既存建物の空間構成の本幹となる部分を残しながらの改修
- **「建物の合理性の精神」の尊重**：耐久性のある外装材、省エネルギーに配慮した建物構成など、既存の建築のもつ合理性を活かした改修
- **合意形成の尊重**：本館の設計当初からなされている使用者及び利用者との合意形成の尊重
- **ライフサイクルコストの低減、環境負荷の軽減**：財政状況に配慮した設計
- **すべての人に愛される建築**：多様な人々が快適に利用できることへの配慮

## 第3章 リニューアルの具体的な内容

1 機能と改修内容：リニューアル後の美術館が備える機能と、そのために必要な改修内容を以下に示します。

### （1）子どもたちの豊かな体験を創出する美術館

- 子どもの創造性や知的好奇心を育み、子どもが行っても良い、居ても良いと思える場所づくりを行うと同時に、子どもをきっかけとして、美術館を訪れるすべての人を結びつける取組である「キッズ・プロジェクト」（仮称）の推進
- 「キッズ・プロジェクト」の拠点となり、現在の造形遊戯室の機能も含む「キッズ・スタジオ」（仮称、下図参照）の設置
- 地域の教育機関と連携し、子どもの美術教育の一助となるような取組の推進
- 学校や各種団体の来館にも対応できる環境の整備
- 小さな子ども連れでも安心して来館できるよう、子ども、保護者、周囲の人々のすべてにとって快適な環境の整備



キッズ・スタジオのイメージ

### （2）人々が憩い、くつろぎ、集い、つながる美術館

- 美術館で自由に時間を過ごし、滞在できる場である情報・交流ラウンジ（仮称、下図参照）の整備
- 多様な背景の人々が、美術館での時間を快適に過ごすことができるような配慮
- ユニバーサルデザインへの合理的な配慮
- レストランやカフェ、ミュージアムショップなどの充実
- 収蔵作品のデータなど各種情報の、さまざまなメディアによる発信と、アクティブな学習の場の提供
- 宮城県美術館をハブとした県内の美術館の連携体制の整備と、それを基にした芸術文化の魅力発信、スタッフの資質向上、観光振興や地域活性化等への貢献



情報・交流ラウンジのイメージ

### （3）国内外の人々が魅了される美術館

- 展示と収蔵の新しいスタイルの提案（下図参照）
- いつ来館しても新鮮な鑑賞体験ができるような展示
- 作品を最も魅力的に鑑賞でき、かつ安全な展示環境の整備
- 常設展の充実と大規模な特別展への活用のための展示室拡充
- コレクションを質量ともに充実させるために必要な体制の構築と、学芸員のもつ知識や情報の継続的な更新
- 収蔵品の安全管理と今後の収集活動のための収蔵庫の拡充
- 幅広い誘客を視野に入れた施設・空間の活用可能性の検討
- 東日本大震災の被災体験に基づいた安全な美術館の整備
- 各事業の質を高めるための調査研究と、その成果の発表
- 国籍を問わず楽しめるよう、サイン等の多言語対応の充実



見える収蔵庫（ヴィジブル・ストレージ）のイメージ

### （4）ともに築きあう美術館

- 鑑賞、創作、美術表現の拡大に対応するために必要な空間、設備、スタッフの整備
- 県民の創作活動の促進に資する環境の整備
- 県民の創作活動の発表、交流、鑑賞の場となる県民ギャラリー（下図参照）の整備
- 美術に関する多様な催事の開催に対応できる講堂の整備
- ボランティア等、県内地域における芸術・文化活動に主体的に関わりたい人が、活発に活動できるような環境の整備
- 環境に配慮した構造や機材の導入
- 事業に関わる人々がより効率的に共働できるような環境及び体制の整備



県民ギャラリーのイメージ

### 2 老朽化・旧態化箇所の更新

主な改修検討箇所は以下の通りです。

- 【建物】屋上防水、雨水配管、外壁、内装、家具など
- 【設備】更新推奨年数超過、劣化・陳腐化しているものなど
- 【外構】床タイル、地盤沈下箇所、サイン、照明など

## 第4章 事業の実現に向けて

### 1 概算事業費

約50～60億円と見込んでいます。

### 2 事業スケジュール ※このスケジュールは、現時点での想定であり、財政事情や工事担当部門との調整等により、変更となる場合があります。

| 平成29年度 | 平成30年度          | 平成31年度 | 平成32年度    | 平成33年度 | 平成34年度 | 平成35年度 | 平成36年度     |
|--------|-----------------|--------|-----------|--------|--------|--------|------------|
|        | 大規模事業評価・事業手法の検討 |        | 基本設計・実施設計 |        |        | 改修工事   | リニューアルオープン |
| 基本方針策定 |                 |        |           |        |        |        |            |